

豚コレラワクチン 散布へ計画を確認

桑名で対策協

いなべ市で捕獲された野生イノシシ四頭から家畜伝染病「豚コレラ」の感染が県内で初めて確認された問題で、県は四日、ウイルスの拡散防止策を徹底する「豚コレラ経口ワクチン対策協議会」を、県桑名庁舎（桑名市）で初めて開いた。県、地元市町の担当者や猟友会、畜産関係者ら十九人が出席し、今後のワクチン散布計画などを確認した。



豚コレラの感染拡大防止
へ対策を協議する関係者
＝桑名市の県桑名庁舎で

点で実施する例は初めて。感染イノシシが捕獲された地点から半径十キロ圏内にあるいなべ市、桑名市、菰野町で散布を予定する。

この日の協議会では、スケジュールや役割分担について確認した。まずは、いなべ市内で五日午後から先行実施。県、市の職員らが中心となり、五カ所に計百個のワクチンを散布する。十一日以降、本格実施へ向けて各地で餌づけを進め、十六日から三日かけて百カ所程度に約二千個を散布する予定だ。月末には野生イノシシを捕獲し、血液検査で効果を検証する。県は国を通じてワクチンを四千個確保しており、残り二千個は八月中に散布する。

協議会の副会長に就いた県畜産課の中村雅人課長は取材に「県内の養豚農家を豚コレラから守るには、野生イノシシへの感染防止が重要となる。ワクチンで少しでも危険性を下げたい」と話した。散布予定範囲は二市一町で二百平方キロに及ぶ見通しといい、早急に具体的な地点を決めたいとした。（谷村卓哉）